

隣保館だより



編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1

電話：72-1191 (FAX兼)

E-mail: rinpokan@town.hino.tottori.jp



本物そっくりのユリの花ができました

米子市在住の妹尾仁津美さんを講師に迎え、7月8日と15日に今年度1回目の教室を開きました。

今回は「ユリ」の花を樹脂粘土を使って作りました。

この講座では、1回目に形作りをし、1週間おいて2回目に色塗り仕上げを行います。

とても気さくな先生と、受講生の明るい声に、楽しいひと時を過ごし、出来上がった作品にとっても満足していました。

隣保館学習講座

クレイフラワー教室

隣保館学習講座

生け花教室

毎月第3火曜日に下榎集会所で、生け花教室を開いています。講師は、草月流の生田清子先生です。

5月から受講生が1人増え、現在6人の皆さんが参加しています。同じ花材でも、生け方ひとつでいろいろな趣をみせてくれる作品に、毎回感心しながら観賞しています。

受講生は随時受け付けています。お気軽にお問合せください。



優雅なひとときを過ごしませんか

11月6日・7日に開催決定

《第33回日野町解放文化祭》

7月27日、第1回解放文化祭実行委員会を開催し、実行委員長に西村正満さん、副実行委員長に長谷川真由美さんが選ばれ、開催日時は11月6日(土)・7日(日)に決定しました。

9月の学習講座予定

■生け花 (草月流)

9月21日(火) 午後7時30分～

講師 生田清子さん

会場 下榎集会所

材料代 花代が必要です。日程など変更になることがあります。詳しくは隣保館まで。

ぽかぽか教室 (調理実習)

今回のぽかぽか教室では、旬の夏野菜をたっぷり使ったメニューを4品作りました。

はじめに、町の管理栄養士の長谷川遥さんから、野菜の働き、野菜の上手な取り方、旬の野菜は栄養価が高いことなどの説明を聞き、10人の参加者は身近な材料で出来上がった食事に「とてもおいしかった」「同じ素材でも少し手を加えることで一層おいしくなるんだなー」など感想を話していました。

このメニューがそれぞれの家庭の食卓に上る日も近いでしょう。



しっかり食べて夏を乗り切りましょう

人権のまちひの

2010年8月

人権講座参加報告

6月3・4日、第35回になる部落解放・人権西日本夏期講座が、香川県高松市で開催されました。

人が大切にされる社会は、連帯・参加・共生で

4000人が集まったこの講座では、「人間の尊厳を見据えた《生存権の重さ》に根底から照明をあてて、今、最も必要とされる《連帯・参加・共生》の実現に向け」、部落差別・格差社会・障がい者などを切り口に講演がありました。

世間に追従する体質は暮らしやすさを阻害する

具体的事例を挙げて話される中で、「世間の場に合わせるだけのつもりが、差別の渦を維持し、持続させる原動力となっている」、「貧困が《希望の心》を増幅させて、《希望の心》を縮小させて意欲をそぎ落とす」といった

根雨 山下弘彦
下榎 松本 進

指摘がありました。が、これらは多くの人権問題、暮らしやすさを阻害する状況に通じるものと思います。

住みよい地域社会は他者を認め受け入れること、かわりあうこと

《連帯・参加・共生》を果たしていくためには、自分と他者を共に認め、受け入れることが必要で、お互いのかかわり合いなくしてできることはありません。

地域での交流や結びつきが弱くなっている一方で、集落や町域で集まる場づくり、交流活動、助け合いの取り組みはさまざまに行われています。地域の現状を踏まえて、こうした取り組みに一人一人、自分ができる形でかわることこそ、人権意識の高い住みよいまちづくりを推し進めていくのではないのでしょうか。

人がつくった差別は人の力で無くそう

～第3回町民人権講座～

さまざまな人権問題について知り、
学習を実践するための町民人権講座を、
7月28日、山村開発センターで開きました。

中世日本から続いている
部落差別

今年度3回目となる今回の講座は、元鳥取県人権教育アドバイザーの足羽隆さんを講師に迎え、「部落史の新しい流れを生かして」と題した講演を行いました。

足羽さんは、日本の人権教育の根本である部落差別問題について、「その起源は中世の日本にあり、人の死やお産、死んだ牛馬の処理や犯罪を『ケガレ』とし、葬儀や死体処理、犯罪取締りなどを営む人たちの集団を忌み嫌う『ケガレ意識』から生まれたもの」と解説し、「それを江戸幕府が政治的に利用し、身分制度として固定化していったという説が有力である」と話しました。

自らの手で差別の解決を

また、「部落解放・人権研究所理事長の寺木伸明さんは、起源説のいずれをとっても部落差別は人によってつくられたものであり、人がつくった差別は人の力でなくさなければならぬ」と話されている。

太政官布告により、身分制度がなくなつて140年経っているのに未だ部落差別は後を絶たない。人権問題について日本人が国際的な役割を果たすことは大事だが、その前に、部落差別を自らの手で解決しなければならぬ」と訴えました。

集まった参加者約60人は、改めて部落史を学ぶことで人権学習の原点に立ち返ることができ、今後の小地域座談会などの実践の場に生かそうと、真剣に聞き入っていました。



身分制度の構造について話す足羽さん